October 2026

MULTILINGUAL ELECTRONIC NEWSLETTER

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り

KAGOSHIMA SOUTHERN WIND TIDINGS

VOL. 213

01 国際交流員のコラム

○ 鹿児島の旅　鹿児島県国際交流員(許 奎 (キョ ケイ)中国出身)

○ 中秋の団らんの夜　鹿児島県国際交流員(許 奎 (キョ ケイ)中国出身)

02 知事の動き

○ 鹿児島ウイスキートレイル協議会が訪問されました(9月9日)

○ 薩摩スチューデント派遣事業参加者が訪問されました(9月10日)

○ 鹿児島祇園睦會 創立 25 周年記念式典・祝賀会に出席しました(9月 13 日)

03 かごしまのイベント情報

○ 妙円寺詣り(10 月 24 日~10 月 25 日)

Coming UP！【令和８年 11 月、12 月のイベント情報】

01 国際交流員のコラム

○ 鹿児島の旅

鹿児島県国際交流員(許 奎 (キョ ケイ)中国出身)

気がつけば、鹿児島県に来てからもう 6 か月が経ちました。この間、研修で京都や滋賀を訪れる機会はありましたが、鹿児島をじっくり探索する機会はなかなかありませんでした。 そこで、「シルバーウィーク」の連休を利用して、友人たちと一緒に指宿市と薩摩川内市へ遊びに行くことにしました。旅の途中では、美しい景色を楽しめただけでなく、新しい友人との出会いもありました。それでは、私と一緒に、この不思議で素敵な旅を振り返ってみましょう！

指宿での「一期一会」

今回の旅は、鹿児島市役所で働く中国人 CIR(国際交流員・女性)と一緒に出かけました。彼女のほかにも、鹿児島大学に在籍する中国人の博士留学生と、中国文化が大好きな日中ハーフの女の子が参加していました。初対面の 4 人は、こうして賑やかに指宿へと向かったのでした。

鹿児島中央駅から指宿駅までは、電車でおよそ 1 時間かかります。正直なところ、この 1 時間の車窓から見える景色にはそれほど期待していませんでした。しかし、列車が青々と茂る木々の間を走り抜け、まるで緑の「トンネル」をくぐっていくような光景には、思わず目を奪われました。途中では海沿いを走る区間もあり、まるで映画『千と千尋の神隠し』に登場する、海の上を走る線路を進んでいるかのような気分になりました。美しい景色に私たちのテンションも上がり、いつの間にかお互いに写真を撮り合いながら、車内は賑やかな笑い声に包まれていました。



▲長崎県 ALT との写真

私の向かいに座っていたのは、欧米系の男性でした。しかも、私と同じようなヘッドスカーフを身につけていました。旅の高揚感もあって、思い切ってこちらから話しかけてみると、驚いたことに、彼は私と同じプログラムに参加して日本に来た、長崎県の ALT(外国語指導

助手)だったのです。

彼の話によると、日本全国 47 都道府県をすべて巡ることが目標で、これまでに 8 県を訪れたそうです。今回は一人で指宿を観光しに来たとのことでした。訪れる予定の観光スポットが同じだったこともあり、私たちは彼を快く仲間に迎え入れました。こうして、私たちの旅のメンバーはさらに増えていったのでした。

指宿駅でバスの周遊券を購入し、最初に向かったのは長崎鼻です。バスを降りてすぐ、目に飛び込んできたのは、かの有名な「薩摩富士」の開聞岳でした。青い空と白い雲を背景にそびえ立つその姿は、まるで本物の富士山にも引けを取らないほどの美しさでした。浦島太郎と亀の像の前でそれぞれ願い事をした後、私たちは思い思いに海辺を散策し、自分だけの「竜宮城」を探しに出かけました。



▲開聞岳の写真

長崎鼻灯台の下で記念写真を撮った後は、日中ハーフの女の子の紹介で、近くにあるフラワーパークへ向かいました。　そこで虹に出会い、普段なかなか目にすることのできない珍しい植物を見学し、さらにマンゴーカレーまで味わうことができました。どれも新鮮で、驚きに満ちた体験でした。旅の最後に訪れたのは、地元で有名な「たまて箱温泉」です。露天風呂から東シナ海を眺めながら温泉に浸かることができ、一日の疲れもすっかり洗い流されたような気がしました。





▲長崎鼻とフラワーパークでの写真▲



▲マンゴーカレー

薩摩川内の綱引き大会

連休２日目、私たちは一行で北上し、薩摩川内市へと向かいました。今回の目的は、地元で開催される大綱引の迫力を間近で体感することです。



▲大綱を編んでいる様子

私たちが到着したのは午後でしたが、駅に降り立った瞬間から、すでにお祭りの楽しげな雰囲気が伝わってきました。会場へ向かうと、ちょうど地元の人々が綱引きに使う大綱を編み上げているところでした。聞くところによると、朝から地元の学生や住民で構成されたボランティアの皆さんが作業を始め、全長約３６５メートル、重さ約７トンにも及ぶ巨大な綱を完成させるのだそうです。

日が暮れると、塩田知事の挨拶とともに、いよいよ開会式が始まりました。地元企業や地域の代表として参加する男たちが、地域ならではの衣装を身にまとい、上半身をあらわにして次々と舞台へ登場します。九州男児らしい勇ましい姿で、気合十分といった様子の彼らが歓声の中で綱を担ぎ上げる光景は、まさに圧巻でした。会場全体が熱気と興奮に包まれ、祭りは大いに盛り上がりました。


▲綱引き大会の様子

この行事を通じて、地元の人々はまるで一本の大綱のように固く結びついているのだと感じました。地域の人々が力を合わせることで、普段は落ち着いた街並みにも、活気とエネルギーがあふれていました。

イベント終了後には、私たちも地面に落ちていた綱の切れ端を拾いました。厄除けや開運のご利益があると聞き、旅の記念として大切に持ち帰ることにしました。今回の旅を通じて、これまで知らなかった鹿児島の新たな魅力に触れることができました。鹿児島の魅力を探す旅は、まだまだ続きます。次はどんな発見や出会いが待っているのでしょうか。皆さん、ぜひ楽しみにしていてくださいね！

○ 中秋の団らんの夜

鹿児島県国際交流員（許 奎（キョ ケイ）中国出身）

9月末、中国では四大伝統行事の一つである「中秋節（ちゅうしゅうせつ）」を祝いました。中国では、毎年旧暦の 8 月 15 日が伝統的な中秋節です。「中秋」とは、秋の真ん中という意味です。また、旧暦 8 月 15 日の月は、ほかの月の満月よりもひときわ丸く、明るいと考えられていることから、「八月節」とも呼ばれています。今日は皆さんと一緒に、月にまつわるこの特別な中国の伝統行事について見ていきましょう！

中秋節の由来

「中秋」という言葉は、最も古い中国の礼儀作法を記した『周礼（しゅうらい）』に登場します。ただし、当時は「秋の真ん中」という時期を表す言葉にすぎませんでした。当時の朝廷では、月を祭る儀式が行われ、豊作や天候に恵まれること、そして国の平和と人々の暮らしの安定が祈られていました。

魏晋時代になると、月を眺めながら高楼に登ることが、文人たちの楽しみの一つとなりました。そして宋代になると、中秋節は正式な伝統行事として広く定着していきます。この頃に広く知られるようになった「嫦娥奔月（じょうがほんげつ）」の物語も、中秋節にロマンチックな彩りを添えました。

「嫦娥奔月」の物語：はるか昔、空には 10 個の太陽があり、その強烈な日差しによって大地は干上がり、人々は苦しんでいました。そこで英雄・后羿（こうげい）が 9 個の太陽を射落とし、人々を救いました。その功績をたたえた西王母（せいおうぼ）（中国で古くから信仰されてきた女性の仙人）は、后羿に「不老不死の仙薬」を与えました。しかし、后羿は愛する妻・嫦娥（じょうが）と離れたくなかったため、仙薬を嫦娥に預けていました。ところが、后羿が留守にしている間、悪者が嫦娥に仙薬を渡すよう迫りました。困った嫦娥は、仙薬を自ら飲み込んでしまいます。すると、嫦娥の体はふわりと宙へ浮かび上がり、そのまま月へと飛んでいってしまいました。そして、月にある「広寒宮（こうかんきゅう）（月にあるとされる宮殿）」で暮らすようになったといわれています。妻を失った后羿は嫦娥を深く思い、毎年旧暦 8 月 15 日になると、瓜や果物などを供え、遠くから月を眺めました。それを見た人々も后羿にならうようになり、やがて中秋節に月を眺め、家族と一緒に過ごす習慣が生まれたといわれています。



▲Chat GPT で作成

中秋節の過ごし方

月見：中秋節に月を眺める習慣は、唐の時代に盛んになりました。宋の時代になると、さらに盛んになり、身分の高い人々は美しく飾った高台で、庶民は酒楼などで月を楽しんだといわれています。現代でも、家族が集まり、夜空に浮かぶ美しい満月を眺めることは、中秋節の大切な過ごし方の一つです。

月を祭る：中秋節は、古代の天体崇拝に由来し、古くから秋の夜に月を祭る習慣がありました。現在でも、中国の一部の地域では、月を拝んだり、供え物をしたりする習慣が残っています。

月餅を食べる：月餅はもともと月の神に供える祭祀用の食べ物で、唐の時代には月餅に関する記録が見られ、明の時代になると、中秋節の定番料理として定着しました。丸い形の月餅は、家族の団らんや幸せを象徴しています。

灯籠のなぞなぞを楽しむ：中秋節の満月の夜には、公共の場所にたくさんの灯籠が飾られ、人々が集まって灯籠に書かれたなぞなぞを解いて楽しみます。

ザクロを食べる：中秋節の頃は、ザクロが旬を迎える季節です。ザクロはたくさんの実がぎゅっと集まっていることから、家族が集まり、仲良く暮らすことの象徴とされています。

キンモクセイを楽しむ：中秋節の頃は、キンモクセイが美しい香りを漂わせます。中国では、この時期にキンモクセイの花を使って作る「桂花酒（けいかしゅ）」も親しまれています。

中秋節にまつわる漢詩　『静夜思（せいやし）』

床 前 明 月 光　　床前（しょうぜん）月光を看る

疑 是 地 上 霜　　疑うらくは是（こ）れ地上の霜かと

举 头 望 明 月　　首(こうべ)を挙げて山月を望み
低 头 思 故 乡　　首を低(た)れて故郷を思う

解説：

秋の夜更け、すでに人は寝静まっている時間です。詩人は寝付かれないまま寝台の前の月の光を眺めます。一瞬霜かと思うほどの白い光に、「ああ月の光だ」と顔を挙げると遠くに山並みが見え、その上にしらじらとした光を放つ月がかかっています。この月は満月でしょう。中国人が愛でる月は基本満月です。満月こそが家族だんらんのシンボル。満月を見れば家族を思うというのが、典型的な中国人の心性です。

02 知事の動き

○ 鹿児島ウイスキートレイル協議会が訪問されました（9月9日）

「鹿児島ウイスキートレイル協議会」の皆さまが、協議会発足の報告のため、県庁を訪問されました。

県内 6 つの蒸溜所が連携し、鹿児島の温暖な気候や豊かな自然、焼酎づくりで培われた技術などを生かした鹿児島県産ウイスキーの魅力を、蒸溜所を巡るウイスキートレイル等の実施により国内外へ発信していくとのことです。

県としても、県産ウイスキーの認知度向上や、魅力的な観光コンテンツとしてのウイスキートレイルの PR に取り組んでまいります。



▲「鹿児島ウイスキートレイル協議会」の皆さまとの記念写真



▲ウイスキーの写真

○　薩摩スチューデント派遣事業参加者が訪問されました（9月10日）

　7 月 21 日から 8 月 3 日まで、薩摩スチューデント派遣事業でイギリスを訪問した、高校生の佐藤結さんと永井海光さん、引率教員の Nobis James さんに帰国報告をいただきました。

　高校生のお二人からは、「今回の派遣を通じて、授業の受け方の違いや積極性を学ぶことができた」、「さまざまな方から話を聞くことができ、貴重な体験となった」などの話がありました。

　参加した高校生のお二人が、今回の派遣での経験を生かし、将来、国際交流をはじめ、さまざまな分野において、ご活躍されることを期待しています。



▲佐藤結さん、永井海光さん、Nobis James さんとの記念写真



▲帰国報告の様子

○　鹿児島祇園睦會 創立 25 周年記念式典・祝賀会に出席しました（9月 13 日）

　鹿児島の 3 大祭りの一つとされる「おぎおんさぁ」の、傘鉾（かさほこ）や神輿（みこし）の担ぎ手などからなる「鹿児島祇園睦會（かごしまぎおんむつみかい）」の創立 25 周年記念式典および祝賀会に参加しました。

　鹿児島祇園睦會のこれまでの歩みや「おぎおんさぁ」の歴史に触れ、長きにわたり祭りを支えてこられた皆さまの思いや、熱意を改めて感じました。

　また、25 年という節目を迎えられたことをお祝いするとともに、これまで積み重ねてこられた活動に敬意を表します。

　今後も、「おぎおんさぁ」の伝統が受け継がれ、鹿児島のまちを盛り上げる祭りとして、ますます発展していくことを期待します。



▲挨拶の様子



▲皆さまとの記念写真

03 かごしまのイベント情報

○ 妙円寺詣り（10 月 24 日～10 月 25 日）

鹿児島市内から日置市伊集院町までの約 20km の道のりを歩いて参拝する伝統行事。

敵中突破後苦闘の末、帰還を果たした義弘公をしのび、泰平の世に士気を鼓舞し、心身の鍛錬をするため、鹿児島城下の武士たち（庶民は明治以降）は関ヶ原の合戦前夜の 9 月 14 日（旧暦）、往復 40 キロの道のりを鎧・兜に身を固め、夜を徹して義弘公の菩提寺である妙円寺に参拝し始めました。廃仏毀釈で徳重神社に変わってからも参詣は続きました。

やがて、鹿児島 3 大行事として受け継がれますが、忍耐姓や持続性の不足を補うものとして大きな意義があります。現在は郷土芸能の奉納や武道大会、家族連れで賑わうウォークリーなど、多くの来場者でにぎわいました。





▲妙円寺詣りの様子「© K. P. V. B」▲

Coming UP！【令和８年 11 月、12 月のイベント情報】

◇ 11 月

1日　薩摩川内はんやまつり（薩摩川内市）

2 日･3 日　おはら祭り（鹿児島市）

3日　弥五郎どん祭り（曽於市）

29 日　第33回　ヨロンマラソン（与論島）

10月30日～11 月 29 日（日）　フラワーズオブヒカリ（長島町）

◇ 12 月

6日　第 46 回ランニング桜島大会（鹿児島市）

5日、6 日、12 日、13 日、19 日、20 日、24日、25日、26 日、27 日
クリスマスファンタジーナイト 2026in かのやばら園（鹿屋）

19 日、24 日、25 日、26 日
ミニ花火ショー　クリスマスファンタジーナイト 2026in かのやばら園（鹿屋）

ぜひ、足を運んでみてください♪

編集後記　（鹿児島県　総合政策部　国際戦略課）

皆さん、こんにちは！！

昼間はまだまだ暑いですが、朝と夜は少しずつ涼しくなってきて、秋らしくなってきましたね。寒暖差があるので、皆様体にお気をつけてください。

今回、国際交流員のコラムで許さんが、中国の中秋節について、紹介してくださいました！

秋の大イベントと言えば、中秋節だそうです！

韓国、シンガポールの秋のイベントについても気になったので、韓国とシンガポール出身の国際交流員にも、それぞれの国で開催されているイベントについて聞いてみました！

（8月号では国際交流員の出身国の祭りについて聞いているので、気になる方はぜひ鹿児島県の公式ホームページからご覧ください～！）

金周希(韓国出身):韓国の忠州(ちゅんじゅ)では韓国の伝統楽器、伽耶琴(かやぐむ)を作った于勒(うるく)を称える、ウルク文化祭が毎年開かれます。于勒は伽耶琴の発展に大きく貢献した人物として知られており、忠州で数多くの伽耶琴の楽曲を創作し、弟子たちに伝統音楽を教えることで、その文化を広く普及させました。こうした功績を称え、韓国の伝統音楽と文化を継承することを目的として、ウルク文化祭が開催されています。

今年は10月8日～11日まで開催されました。期間中は韓国伝統音楽コンクールをはじめ、さまざまな公演や体験イベント、屋台の出店などが行われ、多くの人でにぎわいます。市内全体がお祭りムードに包まれ、地域の伝統文化に触れられる貴重な機会となりました。🎶🎵

チャケリー(シンガポール出身):シンガポールでは、ディーパバリ(Deepavali)というイベントが11月8日に開催されます。このイベントは『光の祭典』と知られるヒンドゥー教の祝祭で、「闇に打ち勝つ光と悪に対する善の勝利」を祝福するお祭りです。

当日は色付きの米、粉、砂、花びらなどを使って、地面に美しい模様を描いてお祝いをします。また、一部地域ではイルミネーションが点灯し、街全体が明るくにぎやかな雰囲気に包まれます。気になった方はぜひ調べてみてください！✨

それではまた次号もお楽しみに☆彡

「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー
鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。
写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。
その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▽▲
鹿児島県総合政策部 国際戦略課
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

電話番号:+81-99-286-2306
FAX番号:+81-99-286-5522
E-mail：minami@pref.kagoshima.lg.jp

・ 鹿児島県庁ホームページ
http://www.pref.kagoshima.jp/

・ 広報紙「県政かわら版」
http://www.pref.kagoshima.jp/kohokocho/kouhoushi/kohosi/kawara/index.html

・ 鹿児島県観光サイト かごしまの旅
https://www.kagoshima-kankou.com/

※ 本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。